

1. 研究テーマ

数年継続して取り組んでいる assessment literacy に関連付けながら、下記4件の研究活動を通じて、様々な側面から日本の英語教育の改善につながる評価方法と教員に必要な評価スキルを模索・検証した。常に、毎月の読書会で学んだ最新の理論を実践に結びつけながら、現状調査や実際のテストや評価方法の検証に基づく提案を行った。

- 1) 教室内評価に関する日本人英語教師の心情 (Belief)、自己効力 (Self-efficacy)、実践状況 (Practice) の調査・分析に基づく具体的な改善策の提言 (継続)
- 2) 高等教育における外部テスト使用 (入学や留学審査や熟達力診断など) の予測妥当性の検証 (継続)
- 3) 日本の英語教育の様々な段階に対応する Assessment literacy の Can-do リストの開発と検証 (継続)
- 4) ELF (世界共通語としての英語) を視野にいた英語力の測定方法の研究及びテスト項目の開発

2. 活動内容

1) 毎月の研究例会

遠隔地のメンバーを含むため、毎月の研究例会発表や討議は全てオンラインで。毎回、主に国際学会誌に掲載された論文から上記4つの研究テーマに関連するものを選び、担当者の発表、質疑応答、自分たちの研究への示唆についての議論という流れで進めた。また、学会発表の内容に関する検討と準備も行った。

2) ワークショップ開催

9月7日に教職を目指す学生と現職教員のための第16回ワークショップを東海大学品川キャンパスにて行った。現行学習指導要領の目標の一つである「スキル統合的指導と評価」を中心テーマとし、教室内評価と Assessment Literacy を意識したテスト理論と評価法に関する講義、モデル授業、参加者によるテスト作成とその評価方法に関する批評活動を行った。

3. 学会発表

読書会から得た知見や上記ワークショップのアンケート結果を踏まえて、様々な調査・検証を実施し、以下の学会発表を行った。

- JACET 国際大会における外部テストの予測妥当性に関する発表：4人の代表者が、現状及び調査結果の分析を報告。
- JACET 国際大会における SIG ポスター発表：テスト SIG の過去と現在の研究を紹介し、参加者の様々な質問・疑問に答える予定であったが、線状降水帯で交通がストップしたため、ポスター発表は行わなかった。
- PAAL 国際大会における発表：3名の代表者が intelligibility の動向と、それに伴う

オンライン使用の発音指導の学生の取り組み状況を発表した。今後の ELF 教育に示唆を与えた。

●JALT 国際大会での発表：4名の代表者が様々な教育段階の教員に対して、改良されたアンケートによる教室内評価に関する信条、自己効力感、実践状況の調査を行い、その分析結果を発表。